

「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

1 / 2

団 体 名	小樽歴建の保存活用を考える会			
事 業 名	「小樽れっけん」発行プロジェクト			
実 施 期 間	2015年4月1日～2016年2月29日			
事業の目的及び期待する効果	小樽の歴史的建造物をそこで生きた人の歴史とともに紹介することによって、ストーリー性を付与し、歴史に厚みを持たせるとともに、作成した冊子を広く配布することによって、市内の歴史的建造物や小樽の歴史への興味を喚起する。			
実 施 額	事業費	543,326 円	助成額	300,000 円
事 業 内 容	<p style="text-align: right;">※★印は助成対象事業</p> 小樽市の歴史的建造物とそれにまつわる人々を紹介した『小樽れっけん』の第1号(★)を2015年11月に発行し、第2号を2016年3月に発行する予定である。本冊子の発行に際して、各歴史的建造物にまつわる人物の関係者を探し出し、インタビューを行った。小樽市内の歴史的建造物は明治期—昭和初期に建てられた物が多く、すでに当時どのように使われていたか、どのような人が出入りしていたかを知る人が少ない。今回の事業の一つの目的は、失われつつある小樽のオーラルヒストリーを収集し、後世に伝えることがある。 また、歴史的建造物は保存費用が莫大にかかるため、所有者が個人である場合は、保存・活用ができない場合も少なくない。そこで本会では、クラウドファンディングによる資金集めを考えている。しかし、クラウドファンディングを成功させるには、周辺とくに小樽市民の間でどれだけ歴史的建造物の保存・活用の意識が高まっているかに左右されることが多い。『小樽れっけん』の発行は、小樽市民および小樽関係者でこれまで歴史的建造物に特に関心の無かった人たちの間での関心を惹起することを目的とした。そのためにデザインを従来の写真集や冊子とは異なり、イラスト、文章、写真の三点を用いて、従来の歴史的建造物の紹介本とは一線を画するものとした。 作成された第1号は、小樽駅、南小樽駅、小樽市総合博物館、市立小樽文学館、運河プラザなどで配布された他、教育委員会を通じて市内の中学校に配布された。加えて、関西小樽会、東京小樽会、小樽商科大学緑丘会に配布された。			

○内容が分かる「資料やチラシ等」を添付してください

月日	内容	想定事業効果 (参加人数等)	事業効果 (実績)
12月14日	『小樽れっけん』第1号完成・配布	1,000部	750部
3月中	『小樽れっけん』第2号完成・配布予定	1,000部	

◎事業評価について

<p>1. 事業の目的の達成度</p> <p>事業全体に関しては年2号発行であり、これまで1号発行されている。3月末までに2号が発行される予定であり、年度内に100%の達成率となる予定である。</p>
<p>2. 参加した方々や、周辺の方々の満足度</p> <p>作成に参加した小樽商大生は、ほとんどが札幌からの通学者であり、それまで小樽のことをほとんど知らなかったが、この活動を通じて小樽の魅力に気づくことができた。小樽のことをあまり知らない若い世代が小樽市民とともに活動することで小樽への関心を高めることができたことの意義は大きい。</p> <p>また、市内の各ポイントで配布した冊子は、2週間程度で全てなくなった。東京、関西の小樽関連団体からはお礼の連絡を受け取っている。</p>
<p>3. 今後の事業について</p> <p>来年度からは、デザインの見直しを検討しながらも、『小樽れっけん』の発行は続ける予定である。発行費にかんしては、なるべく補助金から独立して、独立採算が可能となるように努力する。また、最終目標である歴史的建造物を保存・活用するためのファンド形成に関しては、母体となるNPO 法人が本年度中に立ち上がる予定であり、『小樽れっけん』の発行などと合わせて、活動を継続する予定である。</p>
<p>4. 「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」に関する要望事項等</p>